はじめに

この度、地域がん登録全国協議会第 6 回総会研究会の Proceedings が、JACR Monograph No.3 として刊行の運びとなったことは大変喜ばしい。これは本協議会事務局、厚生省はじめ、関係各位のご支援によるものである。

地域がん登録は、近年、実施県が急速に増えた。これらの登録では、短期間に成績を向上させ、うまく機能しているところもあって同慶の至りであるが、多くは、困難な諸問題に直面しておられる時期ではないかと推察する。本書が、そのような現場で、少しでも参考とされ役立てば、幸いである。

第 6 回総会研究会は、平成 9 年 9 月 12 日に、千葉市文化センターで開催された。また前日には、主として地域がん登録の実務担当者を対象にした研修会と自由集会が開かれた。今回は全体のメインテーマを「がん登録とコンピュータ」とし、前日の研修会、当日の教育講演、シンポジウムもこれを主題にした。今回このテーマを掲げた趣旨について、ここで述べておきたい。

わが国の地域がん登録は、いずれも、カバーする人口の大きさに比べてスタッフ数が少なく、毎日の作業量の多さに振り回され、業務を少しでも効率化することが求められている。その目的のために、近年発達の著しいパーソナルコンピュータや OA 機器を、もっと有効に活用できないかを考えてみたかった。たしかにこの分野のハード面での進歩はめざましいが、ソフト的には、がん登録業務にとって、今ひとつ使い勝手がよくない場合が多く、せっかくの高度な OA 機器を十分に使いこなしているとは言い難い。未だにさまざまな情報の受け渡しを、手作業で行っている部分も多いのである。早期にこの現状を打開することは可能なのか、そのためにわれわれのできることは何か、について、本研究会が答えを探る出発点になれば幸いであると考えた。

また最近のインターネットの発達で、オンラインでのがん登録も不可能でない時代になってきた。すでに病院内では、これを使った情報のやりとりが行われている例もある。しかし、この分野の研究会や学会で常に議論されているように、そこでの個人情報保護の問題は避けて通れない。我々がん登録を実施するものとしては、日常心がけつつある情報保護についての原則を、改めて、充分に認識しておく必要があると考える。この問題についても、みんなで考えていくきっかけになることを意図した。

当日講演をお願いした先生方が、この趣旨を充分理解して意義ある発表をしていただいたことは、本報告書にも明らかであり、本研究会が一定の成果を収めえたと考えている。諸先生方には、本書の執筆にもご協力いただき、ここに厚く御礼申し上げる。

（村 田　紀）